

市立長浜病院 地域医療連携だより

理念
地域住民の健康を守るため、
「人中心の医療」を発展させ、
地域完結型の医療を推進します。

市立長浜病院
患者総合支援センター 地域医療連携室

救急告示病院 日本医療機能評価機構認定病院 地域がん診療連携拠点病院
がんゲノム医療連携病院 厚生労働省臨床研修指定病院 地域医療支援病院



謹啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は当院の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。7月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けしますので、ご査収ください。 敬白

もっと市民に愛される病院へ 入院支援グループの活動紹介



患者総合支援センター 地域医療連携室
看護師 服部 直美

年々高齢者数が増加し、2040年にはピークとなります。高齢者の救急搬送、在宅医療の増加が予測され、急性期病院でも医療の提供だけでなく、地域の医療・介護との連携を強化し、速やかに在宅復帰できるようにすることが求められています。

2018年から入院時支援加算が算定できるようになり、入院前からの入退院支援が多くの病院で行われるようになりました。当院でも「生活」に配慮した質の高い医療を提供できるよう、入退院支援において入院前の患者様の情報を把握し、入院前と比較してどのような機能が低下しているのか等を見極め、入院中の支援を充実させて退院に繋げることが重要と捉え、「入院時支援」として介入しています。

具体的には、かかりつけ医や介護支援専門員等からの情報提供を含めた患者情報（入院前の生活状況、家族状況、継続して受けている医療、要介護認定やサービス利用状況、ADL、認知機能、外来受診状況等）を把握し、入院・治療への気付きや心配ごと、今後の生活に関する意向等を可能な範囲で患者様やご家族から聞き取ります。また、退院困難な患者様については、その要因を評価し、必要な部署へ情報提供しています。

看護師間の連携に限らず、薬剤師は検査・手術目的入院の患者様に対して、お薬手帳をもとに薬剤を鑑別し、鑑別内容及び休薬を要する薬剤があった場合は推奨される休薬期間について直接指導を行っています。休薬薬剤の理解が不十分な患者様には、薬剤師から直接かかりつけ調剤薬局へ連絡を行うこともあります。また、術後の患者様に対しては術後の早期回復を目指し、管理栄養士による栄養指導やリハビリスタッフによる入院前指導を行っており、安心して入院治療が受けられるよう多職種連携で情報共有しながら関わらせていただいています。

地域医療支援病院である当院において、今後も患者様が住み慣れた地域でその人らしく療養生活を送れるようにするため、包括的にアセスメントし、退院後の生活を見据えた支援の充実及び強化を図り、地域からのバトンを受け取り、地域へバトンを繋いでいくことを心掛けて取り組んでまいります。どうぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。



医師の異動（7月）

- 着任（令和7年7月1日付） ありません
- 退職（令和7年6月30日付） ありません

湖北がんフォーラム2025 7月27日(日) 開催

患者さんに寄り添うがん医療

～がんになっても安心して治療をうけるために～

- 日 時：令和7年7月27日（日）13時30分～16時（予定） ※13時から受付開始
- 会 場：長浜文化芸術会館 大ホール（長浜市大島町37番地）
- 第1部：基調講演 「ともに語らい、寄り添う 令和の時代のがん医療 ～最善を期待して、最善を尽くす～」
滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍内科・腫瘍センター 特任准教授 寺本晃治 先生
- 第2部：講 演 「湖北地域でできること」
- 発表1 「がんゲノム医療について」
市立長浜病院 呼吸器内科責任部長 野口哲男 先生
- 発表2 「大腸がんの治療について」
長浜赤十字病院 外科部長 谷口正展 先生
- 発表3 「がん患者さんへの訪問診療について」
長浜市立湖北病院 内科部長 久田祥雄 先生

問合せ先：市立長浜病院 がん対策推進室

電話 0749-68-2354

※ 申し込み方法等の詳細は、別紙チラシをご参照ください。



医療従事者研修会の開催について

■ 第351回 開放型病床生涯教育研修会

日 時：令和7年8月7日（木）17:30～19:00

テ ー マ：『地域でつなぐバトン～在宅編～』

ファシリテーター：柏崎 元皓 先生（浅井診療所所長）

会 場：市立長浜病院 本館2階 講堂

申 込：FAX・メール・QRコードでお申し込みください。

※ 講演内容や申し込み方法等の詳細は、別紙チラシをご参照ください。



■■ 編集後記 ■■

雨のしずくを乗せていた紫陽花の見ごろから、強い日差しを感じる夏へと季節は移ろいつつあります。戦争や分断、物価高、コメ不足など、明るいニュースは聞こえませんが、大阪万博のニュースを毎日のように目にしていると、少しは日本の「活気」を感じるような気も。当院も1月以降高い病床稼働率が続き、それぞれの職場は本当に忙しい日々ですが、たくさんの患者さんがおられる時はやはり「職場の活気」を感じます。活気があると良いアイデアが生まれます。この風を止めないようにと願います。

